

幼児教育



親子で一緒に 子どもの世界を楽しみましょう



子どもは、毎日新しいことに会い、いろいろな感覚をはたかせ、豊かな感性を磨いています。子どもの心を動かす体験は、身近なところにあります。子どもの声に耳を傾けて、幼児期にしか会えることのできない見方や感じ方といった子どもの世界を、親子で一緒に楽しみましょう。

自然の中で植物や生き物と出会う



カブトムシを探しに行こう！

何かに見立てて想像を膨らませて遊ぶ



アイスクリームに見えてきたね！おいしそう♪

くり返し楽しみながら思いを伝え合う



乗り物に乗って出発！

自分が誰かの役に立つ喜びを感じる



手伝ってくれてありがとう！うれしいよ♪

地域の図書館を活用し絵本に親しむ



お話、楽しいね♪次はどれにする？

令和7年3月に、「小学校教育へつなげる幼児教育とつなげる学びの架け橋」保護者向けリーフレットを発行しました。詳細については、こちらをご覧ください。

(右の二次元コードからご覧になれます→)



問合せ先 滋賀県幼児期教育センター ☎077-528-4661



新学年もスタートした子どもたち



子どもたちは、期待と不安のなかで新たな学校生活をスタートしています。頑張っている時だからこそ、うまくいかないと感じると、「食欲が落ちる」「朝起きづらくなる」「表情がさえない」「頭痛や腹痛を訴えることが多くなる」など心身の不調を起こしやすくなります。ことばで説明できない気持ちは行動に現れます。いつもと違う様子に注意しましょう。

★ご家庭では子どもから話ができるような雰囲気・環境づくりを★

- ▶ 子どもから話し始めるのをゆっくりと待ってみましょう。
- ▶ 子どもの話は、否定をしないで、最後までじっくりと聞きましょう。
- ▶ 1日をねぎらい、一緒に食事やおやつの時間を楽しみましょう。
- ▶ 家庭で安心できる時間を過ごし、心のエネルギーを蓄えられるようにしましょう。



～気になることがあれば 早めに学校や相談機関にご相談を～



問合せ先 滋賀県心の教育相談センター ☎077-586-8125

今回の「おすすめ本」

4月23日は子ども読書の日！

森に散歩にでかけたばくは、動物たちと一緒に遊びます。かくれんぼをしていると、おとうさんが迎えに来て、帰らなくちゃいけないけど、またきつと動物たちとあえるからね。



一見地味に見える白黒の絵ですが、動物たちの表情も豊かに描かれ、幼児の心の世界を見事に表現しています。

乳幼児向け「もりのなか」
マリヤ・ホール・エッツ ぶん/え
まさきりこ やく
福音館書店



子ども読書案内冊子「えほんいっぱい たのしさいっぱい」からの抜粋です。もっといろいろな本を知りたい方は「におねっと」に掲載しているデジタル版をご覧ください。



におねっと「えほんいっぱい たのしさいっぱい」デジタル版のページはこちら

問合せ先 生涯学習課 ☎077-528-4652

障スポ
2025年10月25日(土)～10月27日(月)



わたSHIGA輝く国スポ・障スポ

問合せ先
国スポ・障スポ大会局
☎077-528-3338

PR大使
特設HP



大会HP



～2024湖っ子食育大賞の紹介～

県教育委員会では、学校の特色を生かした食育の取組を「湖っ子食育大賞」として表彰しています。2024年度の受賞校を紹介します。

- <大賞> 守山市立速野小学校
- <優秀賞> 栗東市立葉山幼稚園・甲賀市立信楽小学校
東近江市立玉緒小学校・滋賀県立聾話学校



大賞の守山市立速野小学校は、児童による積極的な委員会活動での残食を減らす取組や、地域の野菜生産者との連携、栄養教諭による給食時間や教科での計画的な指導など、学校全体で食育を推進されています。優秀校でも動画教材を作成し指導を行うなど、ICTを積極的に活用した食育が行われています。

滋賀県では、学校を中心に家庭・地域が連携した食育を推進しています。

問合せ先 保健体育課 ☎077-528-4614

過去のシリーズ人権教育は、こちらをご覧ください。



問合せ先 人権教育課 ☎077-528-4592

翌日、私は「この間の体育の参観でリズムに乗って笑顔でダンスしていたね。思わず笑顔になっちゃったよ。」と声を掛けました。すると娘は、「友だちと一緒に練習したことや先生から教わったことをたくさん話してくれました。その時の娘は、本当に嬉しそうで、私は領きながら聞きました。」

それからというもの、娘との会話は一言二言では終わらず話が弾むようになってきています。娘に対してだけでなく妻や職場でも相手の気持ちに寄り添った言葉がけができるよう心掛けていきたいと思っています。

以前、小学三年生になる娘が初めて習った毛筆を誇らしげに見せに来たことがありました。勢いはあるけれど、バランスが良い字とは言えなかった。「練習したらもっときれいに書けるようになると思うよ。」と返事をしました。すると娘は「うん。分かった。」と答えたきり少いうつぶむいて、自分の部屋に戻りました。その後も、毎日のように学校での出来事や友だちのことは話してくれていたのですが、会話が一言二言で終わってしまうことが気になっていました。娘に対して頑張っしてほしい気持ちを伝えることは間違っていないと思いますが、もしかして、私の言葉は、今までの頑張りや否定されたように聞こえてしまっていたのではないかと、そんなことを意識しながら妻の書いたところを読み返してみると「鉄棒は手が痛いよね。でも、できると楽しいよね!」合奏は緊張するよね。成功するように応援してるよ。」といった言葉が書いてあり、相手の気持ちを考えた言葉の大切さに気付かされました。

四月のある日、しばらく見られていなかった家族日記を読んでいた時に、娘が書いた言葉が目にとまりました。「お父さんに筆で書いたら字が見えたら、練習するともっとうまく書けるようになるって言われていちゃった。」と書いてあり、「いやな気持ちになっちゃったね。紙いっぱい文字を書いて気持ちよくなったんだよね。」と妻からの返事も書かれていました。その瞬間、あの時私が娘にかけた言葉が頭に浮かび、ハッとしました。

我が家では家族三人でつづる家族日記があります。娘が誕生したのを機に、その成長と家族の出来事を記録するため夫婦で始めました。時折読み返しては、「そんなことがあったなあ」や「こんなことを想っていたんだ」と振り返ることができ、気が付くと十年近く続いています。今では、娘も加わり三人で書いています。

シリーズ
人権教育

「相手の気持ちに寄り添った言葉がけ」

